

お釈迦さん・阿彌陀さん・そして

私が佛と成る

(No 3)

先月号では、お釈迦さまの出家の動機の話から、唐突に阿彌陀さんのはたらきについて書いたものですから戸惑われたかと思えます。

お釈迦さまは、インドに実在した歴史的な人物で、覚りを開いてブッダとなり、その教えをこの世にひろめた方であるが、なぜ、お釈迦さまとは別に阿彌陀さんを後の世の佛教徒があがめるようになったのだろうか？

お釈迦さまがお亡くなりになる直前の「最後のお説法」に「これから私の亡き後は、自らを燈明とし、法を燈明とせよ、他をよりどころとするな」と、語られました。このことはお釈迦さまは(ユダヤ教のモーゼやキリスト教のイエスのような)自分は権威者であるとか、あるいは神への仲介者ではなく、他の人びとと共に同じ道を歩む求道者としての姿勢をつらぬかれました。

では、法とは何か？同じ道とは何か？ということをお釈迦様亡き後、お弟子さんらが考えられました。それは決して冷たい理論ではなく、お釈迦さまとの生活を通して感じられていた智慧と慈悲を、宇宙全体を成り立しめている「はたらき」を「法」と、とらえ、その教えをより所として共に同じ道を歩もうとしました。

このあたりの事を、親鸞聖人はこんな詩で教えて下さっています。(6月号にも掲載)

私たちの考え方では「阿彌陀さん」といいますと、先ず本堂に安置されています阿彌陀如来の佛像を頭にえがきます。このことは私が主人公で、私が佛を見、私が聞き、私が南無阿彌陀佛と称え念佛していた。いったように私が主体であって、本堂の仏さま(阿彌陀さん)は、お客さんです。

私の先生は、こういった上のような考え方に次のように教えて下さいました。コペルニクス的転回という。と、コペルニクスは天動説に対して地動説を立てた有名な天文学者です。太陽が東から登って西に沈んでいくとみんな思っているが、本当は地球の方が動いているのだ。全く大きな転換です。いわゆる主客転換を云う。宗教(佛教)は、主客転換で、佛が私を見、佛が私を念じ、私を願ってくださっているのです。このことが、納得できるために求道の積み重ねが大切です。

もう一つ。佛さまを向うにおいて(対象に)お参りする姿は、佛の願われていることではなく、佛のはたらき(願いが)聞こえて来るのです。

対象化について。60年も前の話です。京都駅の南側に屋台の店が並んでいました。そのお店の年輩の主人が白いあご髭をたくわえていました。私の先生はお酒が好物でよく出かけられたようです。ある日、店の主人に尋ねたそうです。「あなたのあご髭は、白くて長くて立派だ、かなり手入れをなさっているのでしょうか」と、その立派な髭を「夜寝る時、蒲団のなかへ入れて寝るのか？それとも外に出しているのか？どうしている」と、問われましたそうです。

即答が出来ないので日を改めてということ、その日は回答が得られなかったそうです。何日かして尋ねますと、その主人の云うのには、「あの質問は殺生な質問で一晩中、布団の中に髭をいれたり出したりで寝られなかったという」その後も、気になって自分の髭なのに分からないし、剃ってしまおうかとも思う、との事でした。と、愉快そうに話されたのを覚えている。自分の事であるのに、分からなくなる。

佛法は、「鉄砲の反対で相手を撃つのでなく、自分を討つものである」

コーラス会員 募集

練習日 毎月一回(第三火曜)
午後一時半から三時半

会場 正行寺本堂に於いて

指導 広陵町 藤本博子先生

内容 発声練習に始まって、童謡や、
文部省唱歌 一般歌謡 佛教讃歌
その他

※ 楽譜の読める方も、そうでない方も
お気軽に参加ください。

楽譜や記号を、分かりやすく指導下さいます。

※ お一人でも多く、参加下さい。

※ 参加費ご協力ください。(月 五百円)

くおんじつじょうあみだぶつ
久遠實成阿彌陀佛

ごじよく ほんく
五濁の凡愚をあわれみて

しやくわむにぶつ
釈迦牟尼佛としめしてぞ

かやじほう おうげん
迦耶城には応現する

(浄土和讃)

【語註・意識】

【久遠実成阿彌陀佛】阿彌陀佛とは、始めもなく・終わりもない久遠の昔に、佛となられたお方で、佛のはたらき。は、

【五濁の凡愚】私達の生きる世界、五濁悪世を憐れんで、この世にお釈迦さまとして、誕生して下さった。

【迦耶城】 お釈迦さまの故郷

【応現】 私たちの生活に応じて対応して下さる。